

## 一般社団法人日本保健医療社会福祉学会2025年度事業報告

人の命や生活を取り巻く環境の変化は、パラダイム転換の様相を呈している。保健医療分野においてもあらゆる局面で効率化が促進され、実践のあり方に深刻な課題をもたらしている。困難を抱えた人々が個別主体的に生きることを支援するソーシャルワークのあり方が根底から問われていると言える。

2025年度はこのような社会的状況をふまえつつ、大会、セミナーを中心とした学会活動を遂行するとともに、長く新型コロナウイルス感染症の影響を受けた大会開催において、6年ぶりに対面での開催を再開し、プログラムも全面復活した。その他各事業の取り組み状況は、以下の通りである。

### (1) 学術集会・セミナー等の開催

#### 1) 第35回大会の開催

- ・日 程：2025年9月27日（土）・28日（日）
- ・会 場：日本医療大学真栄キャンパス
- ・開催方法：ハイブリッド形式
- ・テ ー マ：溝に橋を架けるナラティブ～ソーシャルワークにおける対話の可能性を探る～
- ・プログラム

##### 1日目

- 13:00～13:10 開会式
- 13:15～16:15 自由研究発表
- (16:25～17:05 総会)
- 17:30～19:30 情報交換会

##### 2日目

- 10:00～11:30 基調講演  
「対話を通じた組織におけるケアを考える」  
講師：宇田川元一（埼玉大学経済経営系大学院教授）  
座長：熊谷 忠和（日本医療大学）
- 12:30～14:30 シンポジウム  
「溝に橋を架けるソーシャルワークにおける対話の可能性を探る」  
座長：巻 康弘（北海道医療大学）  
シンポジスト  
向谷地生良（北海道医療大学／浦河べてるの家）  
関 建久（北星記念病院／北見市医療・介護連携支援センター）  
不動宏平（真栄病院）  
大瀧敦子（明治学院大学）
- 14:40～16:40 事例部会

「クライアントが亡くなった今、心で心进行思いう～パーソナリティ障害をもつ  
Aさんとソーシャルワーカーの事例を通して～」

座長：野村裕美（同志社大学）

事例提供者：三浦由佳（札幌なかまの杜クリニック）

誌面コメンテーター：岸 信之、伊佐 将人（合同会社 Work：精神科医）

16：40～16：50 閉会式

- ・参加者 会員 79 名、非会員 124 名、学生 27 名（運営協力員含む） 計 230 名  
会場参加 72 名、オンライン参加 150 名

## 2）学会セミナーの開催

- ・開催日時：2026 年 2 月 28 日（土） 13:00～16：00

- ・開催方法：ライブオンライン形式

- ・プログラム

「医療ソーシャルワーカーと意思決定支援 “本人の意思” に近づく」

### 第一部 講演

講師 水島俊彦（日本司法支援センター本部 シニア常勤弁護士）

### 第二部 トークセッション

水島俊彦

葛田衣重（千葉大学医学部附属病院 SW）

新保一葉（西陣病院 SW）

- ・参加者 会員 46 名、非会員 36 名、学生 5 名 計 87 名

## （2）出版活動

### 1）学会誌

- ・学会誌第 34 巻の発行
- ・第 33 巻を J-stage に掲載
- ・エディターキックについて協議した（第 2 回理事会）。

### 2）『臨床推論』（仮）の出版準備

前期理事会の担当役員間でこれまでの経過を共有し、出版の方向は変わらないことを確認した。

## （3）広報

### 1）学会ニュースの発行

- ① 学会ニュース VOL. 34-1 号 2025 年 5 月 26 日発行
- ② 学会ニュース VOL. 34-2 号 2025 年 11 月 26 日発行
- ③ 学会ニュース VOL. 34-3 号 2026 年 3 月 12 日発行

### 2）学会ホームページの充実

- ・ホームページの更新(11 回)

- ・ホームページ全体を視野にリニューアル（案）を検討し、第7回理事会に提案した
- 3) 学会案内リーフレットの配布
- 4) 第30回大会DVDの実費頒布 残 127 枚

#### (4) 渉外

- 1) ソーシャルケアサービス研究協議会への参加
- 2) 日本社会福祉系学会連合への参加
  - ・総会への出席
  - ・大会開催の補助金を申請し受給した

#### (5) 救急認定ソーシャルワーカー認定機構

- 1) 救急認定ソーシャルワーカー認定機構理事会への参加
- 2) 認定・研修事業の実施協力
  - ・ショートセミナー  
2025年5月28日（水）、6月26日（木）、7月30日（水）、8月27日（水）、  
10月18日（土）、2026年1月24日（土）、2月5日（木）
  - ・アドバンス研修 2025年6月26日（木）、2026年3月20日（金）
  - ・オンラインサロン 2025年7月16日（水）

#### (6) 能登半島地震等災害支援活動

昨年度までに出会いのあった行政、社会福祉協議会、県人会、その他関係者・関係団体と持続的な関係をつくり、能登半島地震及び東日本大震災にて関西地区に遠隔地避難をしてくられた方々に向け、以下のような取り組みを行った。ソーシャルワークの視点をもって出会いの場づくりを重ねることが、気軽に相談できる関係を育むことにつながっている。

- 1) 平野神社様のご厚志により「平野神社桜コンサートとお花見」を開催した。  
4月6日（日）学会単独開催（京都市北区）  
＜参加＞避難者：3名 学会ボランティア：6名
- 2) 本学会と京都府社会福祉協議会、京都府災害ボランティアセンターが『共催』、行政（石川県、京都府、京都市）が『協力』の形をとり、能登半島からの避難者への支援事業を継続した。山本・畑中は、企画、運営にも積極的に参加した。  
「能登きまっしカフェ」2025年6月1日（日）、9月23日（火）、2026年2月7日（土）  
＜参加＞避難者：延42名（他に同伴者10名）、学会ボランティア：延12名
- 3) 東日本大震災と能登半島地震の避難者が初交流できる場を設けた。  
一般社団法人なごみ（東日本大震災支援団体）と2)の共催団体が連携、行政（福島県、石川県、京都府）が『協力』の形をとり、東日本大震災避難者の集いに能登半島地震の避難者が参加させていただいた。活発な相互交流の場となった。  
「ぷらっとカフェ」2026年2月7日（日）

＜参加＞（能登）避難者：9名（他に同伴者3名）

- 4）上記事業にかかる関係者の打合せ（共催団体・行政）に山本・畑中が参加した。

2025年5月20日（火）、6月12日（木）、6月26日（木）、9月18日（木）、  
2026年1月19日（月）、3月5日（木）

- 5）マスコミ関係

住居問題を取り上げた9月23日開催の「能登きまっしカフェ」の様子が、同日のNHKと  
KBS京都でTV放映され、10月17日（金）に京都新聞に詳細が掲載された。

## （7）新規事業の検討

阪神・淡路大震災支援活動諸資料の扱い及び災害支援活動基盤の常設化について検討した。

## （8）その他学会運営に関すること

- 1）役員選挙の実施

選挙管理委員長 内藤雅子（京都府ボランティア協会）

投票期間 2025 年 7 月 15 日（火）～7 月 30 日（水）

開票日時 2025 年 8 月 2 日（日） 15 時

結果は、2025 年 9 月 27 日（土）の通常総会にて報告、承認された。

- 2）2025 年度通常総会の開催

2025 年 9 月 27 日（土） 日本医療大学真栄キャンパス 講義棟 3 階 301 教室

- 3）理事会の開催（第 4 回、第 8 回及びメール稟議を除き Web 開催）

第 1 回 2025 年 5 月 30 日（金）20 時 00 分～22 時 01 分

第 2 回 2025 年 7 月 18 日（金）19 時 30 分～22 時 04 分

第 3 回 2025 年 8 月 14 日（木）19 時 30 分～21 時 50 分

第 4 回 2025 年 9 月 27 日（土）17 時 00 分～17 時 10 分（日本医療大学真栄キャンパス）

第 5 回 2025 年 10 月 14 日（火）20 時 00 分～22 時 10 分

第 6 回 2025 年 12 月 16 日（火）20 時 00 分～22 時 25 分

第 7 回 2026 年 2 月 4 日（水）20 時 00 分～22 時 20 分（明治学院大学白金キャンパス）

第 8 回 2026 年 3 月 15 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分

メール稟議① 2025 年 4 月 20 日（日）

メール稟議② 2025 年 4 月 27 日（日）

メール稟議③ 2025 年 4 月 29 日（火）

メール稟議④ 2025 年 5 月 12 日（月）

メール稟議⑤ 2025 年 5 月 15 日（木）

メール稟議⑥ 2025 年 5 月 22 日（木）

メール稟議⑦ 2025 年 6 月 2 日（月）

メール稟議⑧ 2025 年 6 月 6 日（金）

メール稟議⑨ 2025 年 6 月 20 日（金）

メール稟議⑩ 2025 年 6 月 24 日（火）

メール稟議⑪ 2025 年 7 月 3 日（木）

メール稟議⑫ 2025 年 8 月 29 日（金）

メール稟議⑬ 2025 年 9 月 16 日（火）

メール稟議⑭ 2026 年 3 月 24 日（火）

メール稟議⑮ 2026 年 3 月 25 日（水）

4) 学術集会・セミナー等の企画運営に関する検討

第 36 回大会の企画において、開催地区の担当役員一任を見直し、理事会協議の比重を多くした。

5) 会員に向けたメールによる情報発信

大会およびセミナーの案内を、郵送に加えてメールでも発信した。

6) 2025 年度事業計画及び予算書、2024 年度事業報告及び決算書を作成した。

7) 会費長期滞納者への個別対応を行った。

8) 日本学術会議、他学会等との連携（渉外担当の団体は除く）

- ・日本医療ソーシャルワーカー協会に「医療ソーシャルワーカー業務指針」改訂にかかる要望書を 2025 年 10 月 9 日に提出し、熊谷会長が厚生労働省の医療ソーシャルワーカー業務指針改訂プロジェクトチームに参加した。

- ・他学会、他団体より学会事務所に届いた情報は、理事会もしくは事務局で適切に対応した。

9) 役員交代に伴う法務局への変更登記を行った。

《会員数（2026 年 3 月 31 日現在）》

正会員：256 名 準会員：5 名 合計：261 名